



埴淵賢治議員

Q 文化施設「アートギャラリー」の建設

A 総合計画に盛り込むも、慎重な検討が必要

本町では生涯学習の活動が盛んですが、文化活動の成果を常設して展示できる環境は少なく、また道内外からの作品に対しても時間と場所に制約があります。その解消策として、町の基本構想の実施計画にもあります「アートギャラリー」の建設に関係町民は大きな期待を寄せています。神田日勝記念美術館に併設することで相乗効果も生まれ有効と考えます。これまでの検討、研究の結果もふまえ町長の考えを尋ねます。

(答弁) 吉田町長
ギャラリー建設の可能性



神田日勝記念美術館

について、何度か一般質問で答弁した経過があります。美術館の機能として企画展示室があることはベストとは考えます。前回の質問時にも答弁しましたが、多大な費用をかけて十分な機能を備えた施設を準備することは難しく、空調設備を備えない程度の施設であれば増設も可能です。神田日勝記念美術館の来館者をターゲットにリピーターを増やす方策を考え、その取り組みとして、企画

展等は可能な限り美術館内で実施しています。その結果、常設展示と企画展示が同時に同所で開催され来館者に好評をばくしています。議員ご提案のアートギャラリーの建設は、美術館の機能が充実強化されると考え、第6期総合計画に整備の方向で盛り込んでいますが、国策等の見直しをふまえ慎重な検討が必要と考えます。

Q 農芸公園大型鉄骨ハウス施設の活用策は

A 育苗施設で継続利用



狩野正雄議員

(質問) ①ハウスを利用して花苗、野菜づくりで高齢者の経験や技術を活用しては。②大型のハウスをゲートボールコートなど健康増進の施設として開放する考えは。

(答弁) 吉田町長
農芸公園に2棟あるミラーハウスの内部整理が完了し、全面的に利用できる

ようになります。東棟につきましては中仕切りや2段階の温度調節も可能であり、花係やもみじ工房の育苗施設として効率化をはかりながら継続利用します。介護予防センターの室内ゲートボール場は葬儀等で利用が重なる不便さもあります。ミラーハウスの西棟はゲートボール場としての利用も可能ですが、本来の目的である農業用ハウスとして利用を考えています。農芸公園整備も実施しているのと、一体的に機能させ、花を見せるための施設、農業の試験栽培施設として有効利用をはかりたい。

高齡者の中には、運転ができない、運転が不安という交通弱者が増えていきます。オンデマンド方式(需要に応じて)で、高齢者などがスクールバスを利用することは可能ですか。

(質問) 高齡者の中には、運転ができない、運転が不安という交通弱者が増えていきます。オンデマンド方式(需要に応じて)で、高齢者などがスクールバスを利用することは可能ですか。

(答弁) 吉田町長
スクールバスの利用は可能です。デマンド方式は必要と考えますが、街の中も農村部もきめ細かくまわる方法を考える必要があります。沖繩の「ゆいまーる」という助け合いの思想を、この町でも構築する方法がないか研究したい。

Q 鹿追町にとって大事な施策とは

A 個々に充分な協議を行いたい



川染洋議員

(質問) 1、高齢者や運転免許のない住民の足の確保が必要。

(答弁) 吉田町長
1、高齢社会にあつて足の確保は重要、患者輸送バス、スクールバス、民間と協議を重ね実施をしたい。

(質問) 2、協働の町づくりには行政区の見直しが必要では。

(答弁) 吉田町長
2、役場のご用聞きではない、自分たちが考えて地域づくりをする組織作りが必要だと考えている。

(質問) 3、町が進めようとしている計画を具体的に住民に知らせるかどうか。

(質問) 6、町づくりの原点は消費者の増加が必要。
(答弁) 吉田町長
6、大都市圏の自治体との友好、人的、経済交流の活性化をはかりたい。

(質問) 7、学童保育の更なる活動を推進すべきでは。

(答弁) 吉田町長
7、十分現状を把握し、対応していきたい。

(質問) 8、障害児童の安心と安全のための施策は。

(答弁) 吉田町長
8、グループホーム、ケア

ホームなどによる安心して生活できる場を確保したい。

(質問) 9、人口減少のおり鹿追町の出生率の向上を促すには。

(答弁) 吉田町長
9、育児不安や孤立感の解消に向けた相談体制などを充実し、子どもを産み育てやすい環境作りをします。

Q 農地集積円滑化団体の設置は

A 農業委員会との連携により設置を



上嶋和志議員

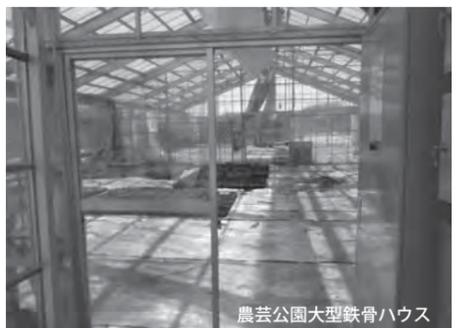
必須条件となっている「農地集積円滑化団体」と「農業委員会」の役割は共通点が多いと考えます。農地集積円滑化団体の設置時期と委員の構成は。

農業者戸別所得補償制度

米、麦、大豆、テンサイ、でん粉原料用バレイシヨ、ソバ、ナタネが対象作物となります。品目ごとに生産数量目標に従って、生産する販売農家と集落営農を支援する制度です。



農地再編・換地委員会



農芸公園大型鉄骨ハウス



つぶやき

■バイオガスを利用した野菜の栽培。2月下旬に種まきをしたキャベツ、白菜が青々と成長。学校給食で子どもたちに楽しく食べてもらいたいなあ。